

會員消息 (その二)

城山の蝶を思うて 千葉 小野 盛雄

(前巻)

こちらに来て、早や一か年余を夢の如く無為に過してしまいましたが、千葉市一帯では、山なく河川なく、変化に乏しいので、風光明媚な佐伯地方のことが、常に脳裏から離れません。

こちらに来て感じたことは、佐伯地方は、野鳥や蝶類空庫だと思えます。城山の蝶類だけでも、ヒヨウモン・シジミ・セセリ・揚葉・夕テハ類など、数えきれない程の種類がいます。ちよつと目をひくツマゴロヒヨウモン・メスゴロヒヨウモン・ルリ夕テハ・アサギマダラ・スミナカシ・イシガキヨウ・ヒオドリキヨウなども観察できました。黄蝶や紋白蝶同様に、どこでも見ることができそうで案外見ることのできないツマキヨウや、三の丸の橋のたもと、同登山口を二丘位入ったところ、初めて見ました。その時の喜びを今でも忘れません。

佐伯はまた、石造文化財の空庫とも思えます。一歩戸外に出れば、立派な石造物を拜見することが出来ます。下総は石無き国——といわれるように、石持皆無の土地です。その故か、大変少ないようです。佐伯をばなれて益々、佐伯の美点を、切々として感じます。

しかしながら、こちらにも、日本武尊・弟橘媛の伝説をはじめ、豊富な史実や伝説があります。千葉市内に國鉄の蘇我駅(そがえき)があります。弟橘媛が尊のため、身を海神にささげた後、この付近に漂着、潮もなく蘇生して、「我れ蘇れり」と言った——それがこの土地の名となり、現在の蘇我町であり、所収のソガ神社は媛

が祭神です。古い時代からの社の由、松の疎林あり海浜をしのびせれますが、かつての海岸は埋立てられ、京葉工場地帯となっています。(後巻)

(附) 有るほど城山は徒歩の文倉だけでは足りないですね、石造文化財もそうですね。

弟橘媛の伝承があること、ばらばら知りました。(註)

會員消息 (その二)

沓江高山海岸 竹野 清河 吉田 勝一

(前巻)

昨年は先生の手巻力によって町史ができて、町民皆其の史実に感謝の意を表しています。今後は何時〜迄も所史は保管される事と思えます。

それについて、元嶺・高山海岸の、今から百五十年位以前からの地形変化について、書きしるしておきたいことをおしらせします。

町史には、昔の地震のことが書いてありますが、その時に、沓江のせびら山の約四分の一が海にくずれ込み、其の山の土が高山・元嶺・沓江又内の新高敷地付近迄が一面の海で沓江行の通路は、現在の高山地又は海岸の上の山の中を通行せよといったことは、今も古い道が仄々残っています。

現在の砂浜は、百五十年か二百年前が全部海であったことは萩等の祖母達より言い伝えられています。自然の地形の変更として、町他ではあまり割のないことで、町

